

木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会委嘱状交付式
第1回木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会会議録

○開催日時：平成28年11月17日（木）
午後3時00分から午後4時30分まで

○開催場所：木更津市役所朝日庁舎2階会議室F

○出席者氏名

審議会委員：多田元樹，齋藤勇，間宮淳子，白石和義，池田京，安部敏男，
清水一太郎，福田豊稔，三根裕之，玉川剛，藤平慶子，保泉昌宏，
阿部俊文

教育委員会：高澤教育長，堀切教育部長，齋藤教育部次長
（学校教育課）廣部参事，鈴木副課長，今井主幹，高島主査
（施設課）勝畑参事

○議題等及び公開非公開の別

委嘱状交付式：公開

議事(1)正副委員長の選出：公開

(2)諮問：公開

(3)経緯経過説明：公開

(4)今後の審議スケジュールについて：公開

○傍聴人：0人

○議事等概要

委嘱状交付式

教育長から各委員へ委嘱状を交付

教育長あいさつ

みなさん、こんにちは。教育長を仰せつかっております高澤と申します。どうぞ
よろしく願いいたします。皆様方には、本日は大変お忙しい中、お集まりいただ
きましてありがとうございました。

ただいま木更津市ではオーガニックな街作りということで、昨日今日とアカデミ
アホールにてアジアから10カ国ほど、代表の方をお招きをしてフォーラムを開い
ております。こういったことにも取り組んでおりますので、皆様方にはご理解を頂
いてご協力をいただければと思います。

さて、ただいまは学識経験者の方をはじめとして13名の皆様に委嘱状を交付さ
せていただきました。この審議会の期限は2年間となりますので、平成30年10

月までの期間、ご協力をいただきたいと思います。

木更津市は、皆様、ご存知のとおり、アクアラインや圏央道の影響もありまして、おかげさまで人口は13万人を越えておりまして増加をしております。まだこれから当面7～8年先までは人口は増加するのではと予測をしております。ともないうち、市内の小中学校の児童生徒数をみてみますと、他市では少子化の傾向がある中、本市では横ばいから微増ということで推移しております。しかしながら、各学校へ目を向けてみますと児童生徒数にはばらつきがありまして、市街地周辺の学校では児童生徒数は減っており、市街地中心部の学校では増えてきているという状況です。こういった状況の中で、ちょうど先日、平成23年10月に策定いたしました木更津市小中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針を見直しをさせていただきました。この中で、3つの学校の通学区域を見直すということを改めて明記をさせていただきました。この3つと申しますのが、かなり多くの人口を抱えております地域にあります真舟小学校、木更津第二中学校、清川中学校を今回の通学区域審議会の該当校としてあげさせていただきました。しかしながら、この3校の通学区域を見直すということになりますと、この周りにあります小中学校を絡める形の中で周辺の学校の通学区域も見直されていくことになるとと思いますので、皆様のほうから忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

本日の会につきましては、お手元の資料にありますとおりに進めてまいります。とりわけ、経緯経過説明につきましては、学校教育課の廣部参事が行いますが、今後の検討の資料となりますので、皆様には十分にご理解を頂きたいと思います。いずれにいたしましても、皆様の忌憚のないご意見をいただきまして、本市の子ども達の適正規模・適正配置に向けまして教育委員会としても取り組んで参りたいと思いますので、ご支援・ご協力をいただければ幸いに存じます。最後に、皆様方のみずますのご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

議事(1) 正副委員長の選出について

審議会条例第5条第2項の規定に基づき、委員長に多田元樹委員、副委員長に間宮淳子委員が選出された。

議事(2) 諮問

高澤教育長から多田委員長に諮問書が交付され、引き続き、事務局廣部参事から諮問について説明を行った。

(説明概要)

廣部参事

それでは、私から補足説明をさせていただきたいと思います。まず、木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針につきましては、平成21年度と22年度に行われました木更津市立小中学校の適正規模等審議会からの答申を受けまして、平成23年10月に策定され、そこに本年11月に一部改定を加えたものです。この基本方針の目指しますところは、地域により児童生徒数に大きな差異

が生じてきているため、それらをできるだけ適正な規模に近づけていきたいというところにあります。諮問書にもありますが、木更津市としましては33年ぶりに平成26年4月に真舟小学校を開校や、児童生徒数が減少傾向にあります東清小学校、富岡小学校、中郷小中学校を市内全域から通学できる小規模特認校としたことなどは、この基本方針に基づいて行われてきたものです。

さて、このたび、この基本方針の見直しを行いました。その理由と致しましては、木更津市内に人口が急激に増加する地域ができてまいりまして、その地域の学校の中に将来的に現在の施設では教室が足りなくなることが懸念される学校があります。その学校の通学区域の見直しをする必要が出てきたということです。具体的には、真舟小学校、木更津第二中学校、清川中学校の3校です。詳細については、基本方針に掲載されているとおりです。本審議会では、基本方針に基づきまして、以上3校の大規模化への対応をご審議いただきたいと思っております。以上です。

(質疑応答)

多田議長

この諮問について審議をして、最終的に本審議会としての答申を出すということになります。諮問の内容について、何かご質問はありますか。

[質疑については出ませんでした。]

議事(3)経緯経過説明

多田議長

これから「木更津市人口急増地区」の通学区域を審議していくにあたって、まずは現状を把握する必要があります。どのような状況にあるのか、事務局の説明を求めます。

(説明概要)

廣部参事

それでは、具体的な学校ごとの現状を説明させていただきます。別冊の資料をご覧ください。はじめに真舟小学校です。上段の表は、現在の真舟小学校の学区です。真舟一丁目から五丁目、請西東六丁目から八丁目、請西南一丁目から五丁目、現在、在住している0歳児から14歳児までの人数です。真ん中の段の表は、先の人数に、現在開発中の千束台地区の推計、請西南地区の社会増の推計等を加えて算出を致しました今後の真舟小学校の児童数の推計です。最下段の表は、その児童数から割り出しました学級数の推計です。例えば、平成28年度をご覧くださいと、5月1日現在で全校児童数が793名で、学級数が1年生5学級、2年生が5学級、3年生が4学級、4年生が4学級、5年生が3学級、6年生が3学級の計24学級というように表をご覧くださいと思います。そして、現在推計できる最も遠い年度の平成34年度は、1,313名です。この現在推計できる最も遠い年度というのは、今現在で生まれている子どもの数によるものということです。学級数は39学級になる見込みです。ここで、一点訂正をお願いします。最大教室数ですが、

真舟小学校に普通教室として転用できる会議室等がありますが、もともとの教室数は26になりますので、最大教室数は26と訂正をお願いします。こちらを見ますと、今年度は教室が2学級余っていることになりませんが、平成30年度には4学級足りなくなるという数値になります。以上が真舟小学校の現状でして、平成34年度には教室数が13教室足りなくなるということになります。

続いて、木更津第二中学校になります。同様にご覧頂きますと、中学校の場合は、平成40年度まで推計できることになります。平成28年度が生徒数は516名、教室数が16学級ということで、教室数は3教室余っているということになります。最大値と致しましては、平成38年度の生徒数937名、教室数27学級ということになります。この表をご覧頂きますと、平成32年度には教室数が足りなくなるということになります。

そして、最後に清川中学校です。この表を見ますと、平成28年度の生徒数は331名、学級数は10学級ということで、最大値は平成33年度の生徒数454名、教室数14学級です。最下段をご覧頂きますと、平成31年度には教室数が足りなくなるということになります。

[このあと、航空写真により各学校周辺の状況を説明]

(質疑応答)

多田議長

それでは、ただいまの説明について、内容につきましては「真舟小学校と木更津第二中学校の関係」で一つ、「清川中学校の関係」で一つというくくりになるかと思しますので、まずは「真舟小学校と木更津第二中学校」について、何かご質問はありますか。

三根委員

資料にある生徒数は、どのように算出したのですか。

廣部参事

住民基本台帳に基づいた実際にその地域にお住まいになっている子ども達の数になっています。

三根委員

例えば、4歳児ですと現在175名いて、小学校に入学するのが2年後ということで、そうしますと平成30年のところを見ますとそのときの1年生の子ども的人数が181名となっていて、数値が違うのですが、どういうことでしょうか。

廣部参事

上段の数値は現在その地域にお住まいになっている方の数です。そして、中段の児童数との人数の差ということですが、これは、千束台地区や請西南地区に今後、家が建つであろうという社会増を予測した数になっていますので、人数が若干ずれ

ています。

三根委員

この数値に信頼性はありますか。

廣部参事

これまで木更津市で人口が急増してまいりました羽鳥野地区や請西南地区、ほたる野地区の増加状況や増加スピード等を参考に致しまして、これらのデータをもとに算出いたしました。

多田議長

この数値の信頼性というのは、関心が高くならざるを得ないと思いますが、これに関してはただいま事務局から説明がありましたように、これまでの他地区の経緯や、その他いろいろなものを勘案して、事務局で積算したものと思われるので、私たちとしては信頼性の高いデータであるとして審議を進めていきたいと思いません。

三根委員

清川中学校の地域のことになりますが、東清小学校と祇園小学校と南清小学校は、それぞれがそんなに遠くはありません。それで、東清小学校は児童数が55人、祇園小学校が680人くらい、南清小学校が550人くらいということで、東清小学校が1桁少ないわけですが、今の審議は大きな学校の子どもの数が増えて教室が足りないという話ですが、児童数が少ない学校の児童数を増やすような学区の割り当てのようなことは検討しないのでしょうか。東清小学校は、すでに小規模特認校に指定されているから、それで終わりということなののでしょうか。

多田議長

ただいまの質問に対して事務局から回答を求めてもよいですが、今回の諮問事項の中には入っておりませんで、内容が異なってしまいます。しかし、もしかしたら地域の方々から代表として聞いてくるようにとのことでいらしているかもしれませんので、この件につきましては、このあと事務局の方から回答をもらいたいと思えます。それでは、その前に直接的なご質問がある方はお願いします。

清水委員

千束台地区についてですが、いま現在では真舟小学校の区域になっていると思いますが、すぐそばに真舟小学校があるにもかかわらず、わざわざ遠い学校に通わなければならないとなると子ども達がかわいそうだと思います。かつての請西小学校も、真舟小学校ができる前までは児童数が1000人以上いたと思います。それでも校舎を増築するなどしてなんとかやってきたと思います。そういう方法でなんとかできないものかというのが、まず率直な疑問です。

多田議長

これに関連してご質問はありますか。

安部委員

真舟小学校もずいぶんと児童数が増えて学校も難しい状況になっていると思いますが、そもそも開校当初の区割りに対して地域からは疑問の声が多くあります。いま実際にはヤマダ電機から向こう側が請西小学校、手前側が真舟小学校になっていますが、区割りの仕方をもう少し検討していただければよかったですのではという意見が多いです。

多田議長

それでは、ただいまの質問2点につきまして事務局お願いします。

廣部参事

ただいまご質問いただいた2点についてですが、それがまさにこの審議会でご審議いただきたい内容ですので、どのような形で大規模化に対する対応の仕方が望ましいのかという点についてご審議いただいて、子ども達のためになるような答申をいただければと考えます。

多田議長

いま出されたご質問、そして事務局からの回答ということを見ると十分ご理解いただけない部分もあるかと思いますが、これについては今後数回の審議委員会がありますので、その中で十分にお話をいただきたいと思います。今日の内容につきましては、まずは諮問の内容、そしてその諮問を頂くに至る経緯等をご説明いただくというのが中心になるかと思いますが、今のようなお尋ねは当然あると思います。これらに関連して何かありましたらお願いします。

白石委員

P T Aとしては、地域でも子ども達を育ててほしいという要望があります。ですので、できれば一つの自治会には一つの学校というのが望ましいと考えています。例えば、請西東はいま真舟小と請西小でわかれています。中学校も太田中と木更津二中にわかれています。

すると、同じ自治会の中で、この子は真舟小で、この子は請西小というようになると困ることもあるので、できれば一つの自治会には一つの学校というのが理想かなと思います。

池田委員

息子が太田中学校でお世話になっておりますが、真舟小学校が開校するときに、中学校の方も学区の見直しがありました。現状では、道路を境にこちらが太田中で、

こちらは木更津二中というように分かれているけれど、そのあたりをちょっと見直してもらいたいのと、真舟小学校開校のときに見直した学区について、そのときに私は個人的に思ったことがありまして、これはまた将来的に見直すことになるんじゃないかなと思いました。ですので、子ども達にとっては度ごとに学校が変わるのもかわいそうなので、ぜひ今回の審議会では十分に審議していただけたらなと思います。

多田議長

審議するのは私たちですから、十分に審議を重ねて参りたいと思います。それでは、いまは第二中、真舟小、請西小に関する議論が中心でしたが、一方、清川中学校に関する方ではいかがでしょうか。

三根委員

中郷中学校では、生徒数が少なくてやりたい部活動ができないということで、清川中学校に来ている子がいると聞きましたが、今の議論は、生徒数の多い学校が教室の数が足りないから教室を増やしたりということで対応するというようなことを検討していますが、逆に生徒数の少ない学校の生徒を増やすといったようなことは考えないのでしょうか。生徒数の少ない学校は、教室は余っているわけですから、そういったことはできないのかなと思うのですが、いかがなものでしょうか。いまは、生徒が増えるから「教室を増やそう」「グラウンドを広げよう」という発想ですよね。そうじゃなくて、少ないところを増やすといったことは考えられないのかな。そうすればコストも余りかからないだろうし、余っている設備なども有効活用できるのではないかなと思います。

廣部参事

質問をいただきました「生徒数の多い学校から少ない学校に」ということですが、今回の3校についてはまさにそのようなご審議をいただきたいと思います。ご指摘いただいた東清小学校につきましては、前回の基本方針も今回の基本方針も変更はありませんので、児童数の推移を見ながら統合を含めて対応を検討していくということです。東清小と中郷小については、学校の位置の問題や地域性の問題もあり、今回の真舟小や南清小の児童を中郷小にというのも距離の問題や様々な条件が絡んできますのでなかなか難しいところがあります。東清小学校につきましては、今回の審議対象ではありませんが、基本的な考え方としては、複式学級が2つになった時点で統合を検討するということです。そして、東清小学校については、現在推計できる児童の数の見通しとしては、複式学級が二つになるということは今のところはありません。私も東清小学校が小規模特認校になるときに地域に入り説明をさせていただきましたが、そのときにも地域の方から、「昔は、今の祇園小学校のところまでが東清小学校の学区であった」というお話もいただきました。ですが、ではこれから祇園駅付近の子どもたちを祇園小学校があるにもかかわらず東清小学校へというわけにもなかなかいかない面もあるかと思えます。総合的に考えながら

判断して提案させていただいておりますので、そのあたりをご理解いただきながらご審議いただければと思います。また、私は真舟小学校の開校の際の通学区域審議会にも参加させていただいております。当時の議論としては、通学の距離等を踏まえて木更津潮見線で区切るのが最良であろうということでした。また、そのときの数字で一つ覚えておりますのが、平成25年度の推計で平成31年度の学級数が25学級でした。ところが、現在の推計ではプラス6学級となっております。ですので、私たちとしては学校ができることの効果としては、同じだけの人数がそこに居住するにしても増えるスピード感が違うということを感じております。徐々に増えていくのであれば、児童数は同じような数字で卒業していくので推移していきませんが、今現在では私たちが想像していたよりも一気に住宅が建ったことにより人口の増加率がかなりのスピード感になっているということです。

多田議長

今回の諮問は、あくまで人口急増地区における通学区域ということになっております。この人口急増地区というのは、人口があまり変動しない地区とは違っていて、予測し得ない事態が起こりうるということを加味して対応していかなければなりませんので、事務局としての見通しも相当難しいところがあるかと思っております。そういったことを前提にいろいろなデータを示していただいているかと思っておりますので、それらを踏まえ、議論をしていきたいと思っております。

間宮委員

私が真舟小に着任した当初は児童数は614名でした。それが、2年目は719名、そして今年が793名ということで、だいたい100名ずつ増えているような状況です。それで、いまでは教室が足りなくなっている状況です。子ども達はそれでも元気いっぱいにやっておりますが、入る教室がないとなると、これは早めに対応をしなければいけないと思っております。千束台が開拓されるとなると、みなさんはすぐ近くに学校もあるから住もうということも考えるでしょうし、「近くに真舟小あり」といった形で売り出されてしまえばそうするしかなくなってしまうと思っております。

前任校は富岡小学校で、そこは小さな学校でしたので、どうやって児童数を増やすかといったことも考えたりもしました。これは、実現はなかなか難しいと思っておりますが、木更津市全体を大きな学校として、自由に移動できるような形をとって、市内留学のような制度もいいかなと思っております。

玉川委員

私は学校の適正規模というのはあると思っております。もちろん大きければ大きいメリットもあると思っておりますが、あまりにも大きすぎる弊害というものもあると思っております。私が以前、太田中学校に勤務していたときは当初は学年4クラスが、次第に増え、学年7クラスまでになりました。すると、教室が足りなくなり、プレハブ小屋を建てて対応しましたが、ただ単純に部屋があればいいというものでもなくて、グラウ

ンドの問題であったり、体育館の問題であったりと。いろいろなことを考慮すると、やはり学校はこの適正規模の中に収まっているということが、子ども達のためにはいいのかなと思います。

藤平委員

私は木更津二小に勤務しているときに真舟小ができたので、子ども達の中には途中から真舟小に通うという子ども達がいました。そのときに、家庭とあわせて子ども達には真舟小に移るか、それともそのまま木更津二小に残るかという希望を取りました。すると、始めは友達と離れたくないからそのまま木更津二小に残りたいという子が多かったけれど、だんだん近づくにつれて、やっぱり家の近くがいいというような子たちもいました。いまは南清小に勤務させていただいておりますが、いまは他の地域から移り住んだ方のほうが、もともとの住民の方よりも多くなっておりますが、そこに住む人たちはそこで新しい街を作り、故郷を作ろうというのがよく伝わってきます。また、地域の方々の協力なしには学校ではいろいろなことがなかなか成り立ちません。だから、この人数の都合で子ども達の通う学校が変わるといのは、施設や設備の面もちろん大事だとは思いますが、もう一つ地域の人や自然とのつながりということを考えても教育的な面から考えても短期間にいろいろ変わるというのは残念なことではないかなと思いますし、それを作り上げていくことが大事ではないかなと思います。

福田委員

自治会といっても、隣の自治会でもやっていることは全然違いまして、もしその中から移る世帯がありましたら、その世帯は大変になると思います。将来性を考えてラインを引くことになるわけでしょうから、そのあたりは仕方のないところではあると思いますが、そのあたりをよく考慮していきたいと思います。

阿部委員

これは大きな問題であると思いますので、今後何回も行われる審議会の中で、慎重に対応していきたいと思います。

保泉委員

太田中学校は現在、大変人数が多くなっている状況ではあります。そんな中、市内の今の状況を考えると、太田中にも人数が少しは割り振られる形になるのかなと思いますが、人数的にはやはり問題があるのかなと思います。真舟小学校の場合、プレハブ校舎を建てるということも案としては出さないといけないのかなと思いますが、敷地の問題等もあると思いますので、そういったことも含めて慎重に検討していきたいと思います。

齋藤委員

児童生徒数について大規模校と小規模校の二極化は、木更津市だけではなく県内

を見ても全国的に見ても大きな問題であると思います。私は真舟小学校が開校するときに関わらせていただきましたが、そのときを振り返りますと、請西小と真舟小の学区の線引きをどうするかという議論の中で、これが一番良いであろうということで行いました。ですが、その後の人口増加状況の推移についてこの資料を見ますと、真舟地区の児童数が予想以上に増加しているということが分かります。また、この地区は現在も街づくりが行われているということを考えると、まだ人口が増えていく可能性があると思います。街づくりが終わってしまえば、ある程度人口が落ち着くことになるとは思いますが。そういうことを鑑みると開発地区があるということは人口増加が見込まれると思います。

私は以前、木更津第三中学校に勤務しておりましたが、昭和54年ごろに太田中学校と分かれしました。その後、清川中学校と分離いたしました。当時の木更津第三中学校は、学年の学級数が9学級ありました。子ども達が育ちきってしまうと、その地区の人口は落ち着き、横ばいから減少へと推移していくということになります。ですので、その間をどう乗り越えていくかということが問題となるわけです。できるだけ学区は見直さずに行くのが一番良いことだとは思いますが。あまりにも大規模校になりすぎれば教育効果は落ちてしまうことにもなるでしょうから、この審議会ですできるだけよい方法を考え、進めていけたらと思います。

安部委員

私は真舟二丁目ですが、真舟小学校ができてから家が43軒建ち、空き地はほとんどなくなりました。今度は五丁目の方にどんどん建ち始めています。

三根委員

状況と経緯はだいぶ分かりましたので、残りの審議会ですっきりと知恵を出していきたいと思います。

池田委員

これから木更津第二中学校の生徒数が増えるということで、太田中学校と絡めた話が展開されるとは思いますが、太田中学校の生徒数も多くてすでにいっぱい状況だと思うので、これでどのように見直しをするのかというのは少し疑問に思います。また、太田中学校はプレハブ校舎もすでに建っている状況なので、これにどのように対応していくのかという点が疑問としてあります。

白石委員

木更津第二中学校と太田中学校は、いずれもマンモス校で、木更津第二中学校においては学校の敷地も狭く、グラウンドでは部活動が一斉にできない状況にあります。ですので、これから木更津第二中学校の生徒が増えていくというのは、敷地的に考えると対応が難しい状況だと思います。そこで、木更津第一中学校区も視野に入れ、第二中学校の生徒を第一中学校の方へということも考えていく必要があるかなと思います。今の状況で、木更津第二中学校と太田中学校だけで対応するのは、

なかなか難しいのかなと思います。木更津第二中学校の隣接校の木更津第一中学校、太田中学校の隣接校の木更津第三中学校というような形で、もう少し広い視野で検討していくことも必要なのかなと思います。木更津第二中学校は敷地が狭く、部活動のときは時間をずらしたりして工夫しながらやっています。テニスコートも敷地内にないので、テニスコートを借りたりしながらやっています。こういったことも頭にいれながら、審議していく必要があるかなと思います。

多田議長

いま皆さんの方から、質疑やご意見を頂戴いたしました。ここにいらっしゃる方々は、それぞれ学校を管理運営する立場の方や、保護者の立場の方、地区を代表する立場の方、これらとは異なる専門的な知見をお持ちの方、あるいは一般公募の方と様々な立場から、お考えやご意見をいただきました。本日は、様々なご意見ということでお伺いいたしましたが、次回からはこの諮問に沿って計画的に掘り下げた議論をしていきたいと思っております。

議事(4)今後の審議スケジュールについて

(説明概要)

廣部参事

先ほど委嘱されました委嘱状につきましては、任期は二年間になりますが、できれば今年度中に答申をいただきたいと思っております。審議会につきましては、第2回目を12月に、第3回目を1月に、第4回目を2月にということで全4回、月に一回の開催を考えております。第2回目につきましては、現地視察とあわせまして、本日頂いたご意見を参考にしながら、事務局から原案を提案させていただきます。それをもとにご意見を頂ければと思っております。

したがって、本審議会は2月の第4回までとしていただければと思っております。よろしくお願いたします。日にちにつきましては、予定ということで入れさせていただきましたが、できればこの日程でお願いできればと思っております。

多田議長

ただいまの事務局からの説明のとおり、今年度中に答申を出していくということですが、これは事務局の都合ではなく、通学する児童生徒、そして保護者のために出していく必要があることですから、ご理解をいただきたいと思っております。このスケジュールにつきまして、ご異議はありませんか。

《異議なしの声あり》

多田議長

ご異議ないようですので、事務局の提案のとおりと致します。事務局は、次回審議のために、通学区域の案を作成しておいてください。いろいろなご意見、ご要望

等が出されましたが、大切なことは人口13万の市民の皆様のために公正・公平に作っていくことですので、事務局には案の作成をお願いしたいと思います。また、次回の会議の際に、現地確認として予定地の視察がありますが、ご異議はありますか。

《異議なしの声あり》

多田議長

では、今回は現地視察をよろしくをお願いします。事務局は、移動手段の手配をお願いします。

その他、事務局から何か連絡はありますか。

廣部参事

ありません。

多田議長

以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。次回の審議会は、審議スケジュールのとおり、12月16日金曜日に開催を予定しております。おって文書で御案内いたします。本日は、お疲れ様でした。

以 上

上記会議録を証するために下記署名する。

平成29年1月18日

木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会委員長 多田 元樹